

# 腹の立つバグ票から見えたもの ～バグ票の目的を考えよう～ (SQiP2012 SIGでの議論内容)

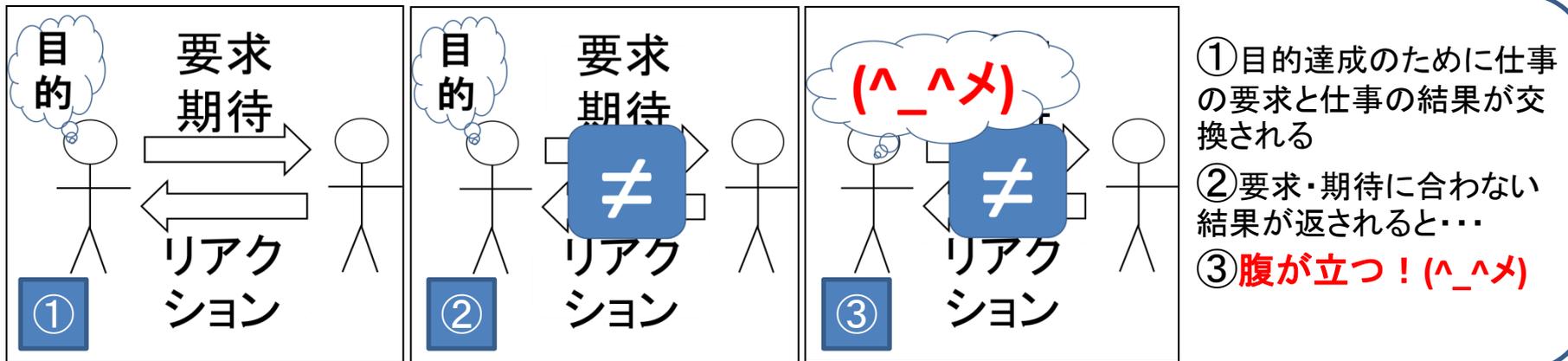
2012/11/30 JaSST12Tokai  
ポスターセッション

バグ票ワーストプラクティス検討プロジェクト  
(ちかみかつゆき すずきしょうご おうみ なべっち 森崎修司)

# はじめに

## 概要

- ◆ ソフトウェア開発プロジェクトの関係者の誰もが読み書きするドキュメントが**バグ票**である。
- ◆ 様々な立場のプロジェクト関係者が**バグ票**に関わる。立場が様々なので、「**バグ票**の利用目的」=「**バグ票**へ期待すること」も多岐にわたるが、それらは、意外なほど共有されていない。
- ◆ 利用目的の共有ができてない背景には、**バグ票**があまりに誰もが読み書きするあまりに身近なドキュメントであるという事情が関係するかもしれない。



このポスターでは我々が今までに行ってきたワークショップ(※)での議論を紹介し、そこで指摘された「**バグ票**にいろいろ書くんだけれど、なぜこの項目を書かなければならないか良く分からない」という課題についての議論したい。

# 背景

## 我々の出発点・・・なぜワープラか？

- ◆ 開発プロジェクトには、そもそもコンテキスト依存が強く、特殊性がある。
- ◆ 「ベストプラクティス」はプロジェクト、組織、業界に固有のものである。
- ◆ 広範囲に使えるプラクティスは必然的に「Best」ではなく「Good」プラクティスとなるであろう。
- ◆ 一方でプロジェクトを失敗に導く要因は、コミュニケーションや限定合理性の問題など、人間の特性に起因するものが主となる。
- ◆ そのため「Bad」プラクティスは「Worst」プラクティスとして広く教訓を共有できる可能性がある。

## キーは「コミュニケーション」・・・なぜバグ票か？

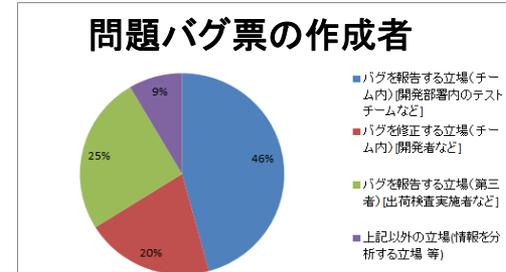
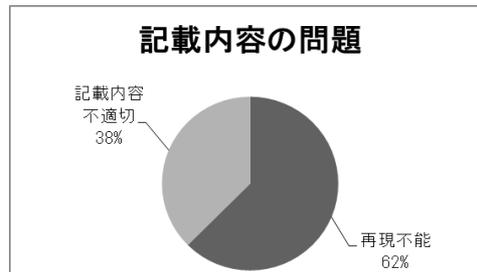
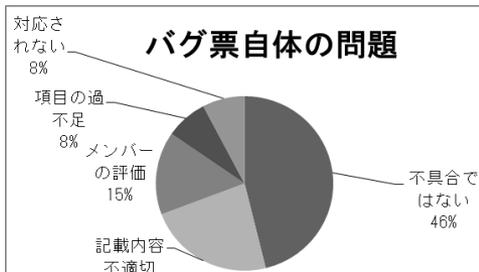
- ◆ バグ票には開発組織の問題点が一番良く表れる「開発ドキュメント」である。
- ◆ 「開発ドキュメント」はコミュニケーションツールであり、開発ドキュメントの中で最も広い範囲のメンバーがかかわるものである。
- ◆ 人間の共同作業の結果としてのソフトウェア製品の完成時品質は、関係者の実効的なコミュニケーションの質と量に正の相関をもつと考える。

⇒ **バグ票**の問題考察から、開発組織の主要問題の診断・改善ができる可能性がある。

# 先行研究とSIGの実施

## 我々のアンケート結果

- ◆ 当プロジェクトでアンケート実施(紙,Web)
- ◆ 良くある問題バグ票のパターンが見えた
  1. 必要な情報(再現手順等)が不十分
  2. 必要のない情報が混入
  3. 記載の必要性や意図が不明、モチベーション下げる
  4. 開発者や納入されたアプリを攻撃
- ◆ 様々な開発組織で類似問題がある



**バグ票の問題⇒そもそもバグ票の作成目的や利用目的が共有されていない?!**

## SIGの実施

### 参加者の構成

- ・開発者:2名
- ・テスト:3名
- ・QA/SEPG:3名
- ・マネージャ:2名

- ◆ SQiP2012でバグ票をテーマにSIGを実施
- ◆ SIGとは特定テーマについてのグループ討論
- ◆ 参加者は種々の背景を持つ10名
- ◆ 問題バグ票事例⇒背景・原因⇒対策案を順に発散させ、KJ法で集約を繰り返す

## 先行研究

- ◆ バグ報告者が必要と考える情報とバグ修正が欲しがらる情報は異なる。

(N. Bettenburg, S. Just, A. Schroter, C. Weiss, R. Premraj and T. Zimmermann: What Makes a Good Bug Report?)

# SIGでの議論内容

## SIGの進め方

### オープニング

SIGの進め方と  
バグ票ワープラの意図  
の説明

### アイスブレイク

参加者自己紹介  
アンケート記載

### 問題バグ票事例の収集

アンケートから問題バグ票  
事例をだしてグルーピング

### 議論対象事例を選択

### 原因と対策案の議論

問題バグ票事例の発生原因  
及び対策案の発散

## 問題点

- ◆ **記入内容不備**
- ◆ 責任追及や評価(言い訳含む)に使われる
- ◆ 日本語になっていない
- ◆ そもそも障害(不具合)でない

## 原因

- ◆ バグ票の目的が共有されていない
- ◆ プロセスとバグ票の関わり
- ◆ 書き手と読み手のスキルの違い
- ◆ 指導や教育の不足

## 対策案

- ◆ バグ票の関係者や目的を事前に共有する
- ◆ 内容チェックの仕組みやツールを検討する
- ◆ ガイドラインを作成する
- ◆ 教育や指導を行なう

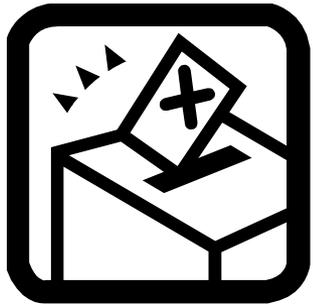
# SIGで得られたこと

- バグ票が有効に活用されていないソフトウェア開発現場があることを再認識した。
- SIG以外で収集したデータとほぼ同じような傾向が得られた。
  - ◆ 記載内容の不備
  - ◆ バグ票自体の改善
  - ◆ 教育/指導の必要性
- 対策の1つに、「目的の共有」が有効であると推測される。

# 今後の方針

- ◆ データ分析の継続
- ◆ ワーストプラクティスのパターン化検討
- ◆ プラクティス集の作成

## 事例調査



## 分析および 改善案検討 イマココ！



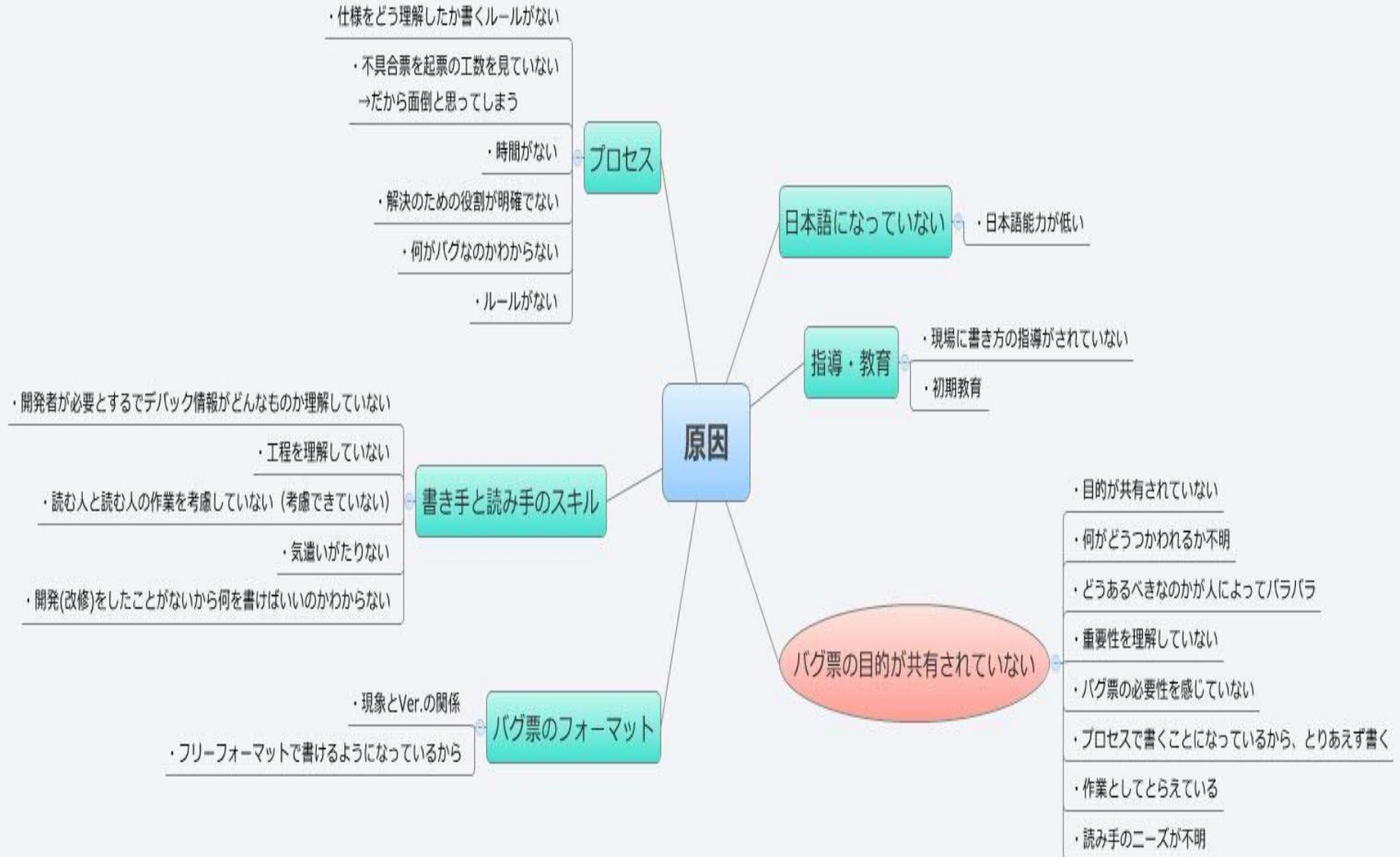
## 発表



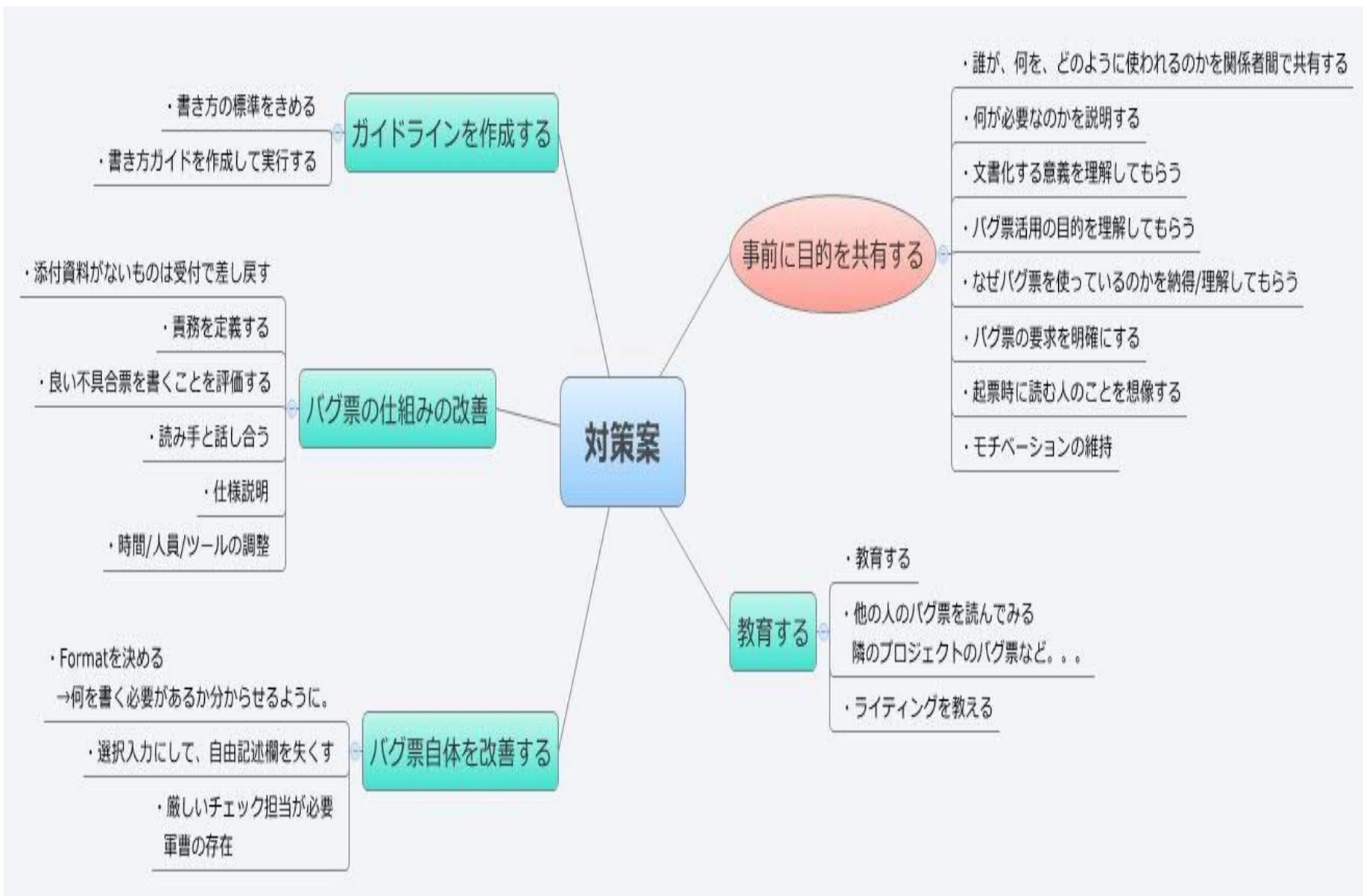
# (付録)問題点



# (付録)原因



# (付録)対策案

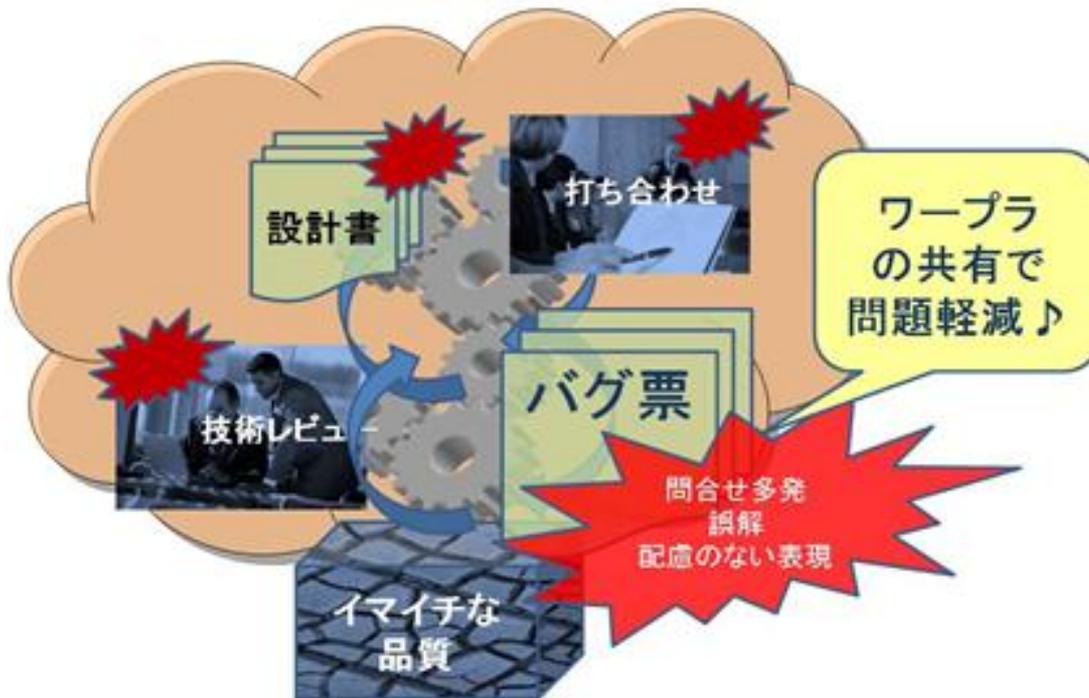


# (参考)コミュニティ紹介



## • バグ票ワーストプラクティス検討プロジェクト

( <http://goo.gl/gix4h> )



- ソフトウェア開発現場に良くある問題点からその背景や原因を調べ開発活動を改善したい！
- ソフトウェア開発活動にて最も多く行き交っているのはバグ票！



バグ票のダメ事例を調べて  
まとめてみよう！

バグレポートを改善



# (参考)コミュニティ活動記録

2010年7月	コミュニティ発足
2010年12月	<a href="#">SoftwareTestingManiaX</a> Vol.4 寄稿 「「そんなバグ票で大丈夫か?」「一番いいのを頼む」」
2011年1月	<a href="#">事例収集アンケート</a> 開始 <a href="#">JaSST'11Tokyo ライトニングトークス</a> にて発表。
2011年6月	WACATE2011夏 分科会 「バグ票(ひよ)にまつわるエトセトラ☆」グループのオーナー担当
2011年8月	<a href="#">SoftwareTestingManiaX</a> Vol.5 寄稿「バグ票について考えよう！」
2011年10月	<a href="#">JaSST'11Hokkaido ライトニングトークス</a> 発表。
2011年10月	<a href="#">JaSST'11Tokai ポスターセッション</a> 参加
2011年12月	WACATE2011冬 分科会 「ソフトウェアテストの「裏鉄則」を考えてみよう！」グループのオーナー担当
2011年12月	<a href="#">SoftwareTestingManiaX</a> Vol.6 寄稿「バグ票について考えています」 「俺のバグ票がそんなにひどいわげがない！」発表@コミックマーケット81
2012年1月	<a href="#">JaSST12Tokyo ライトニングトークス</a> , 掲示板ミニ企画実施
2012年8月	<a href="#">SoftwareTestingManiaX</a> Vol.7 寄稿「バグ票について考え続けてます」 「バグ票について考えよう！」発表@コミックマーケット82
2012年9月	<a href="#">SQiPシンポジウム2012</a> にてSIG開催しました。 (テーマ8:「バグ票、使えてますか? ~良いバグレポートが書けないワケを議論しましょう~」)
2012年11月	JaSST12Tokaiポスターセッション参加 ← <b>New!</b>